



春 闘

共に考え、一步一步 国労運動を前進させていこう！

執行委員長 天野伸行



組合員並びに、ご家族の皆さま、新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染状況は、昨年8月の全国における一日2万人を超える感染者数を頂点としながら、ワクチン接種と感染防止対策が講じたのか、やっと収束の出口が見え始めました。しかし新たな変異株オミクロンの出現によって、感染拡大の恐れが迫りつつあります。すでに世界

80ヶ国余にオミクロン株の感染が拡大しており、国内においても100名に及ぶ感染者が確認されています。再びコロナ感染拡大による社会不安に陥らないため、菅政権の後手後手の感染対策を教訓とした、先手先手の対策を打ち出し新たな変異株を封じ込めることが求められています。岡山地方本部としても、油断することなく徹底した感染防止にとめながら国労運動を前に進めていきたいと考えています。組合員・家族の皆さんにおかれましても、引き続き感染防止に向けた対応をお願いし、改訂をお願い申し上げます。

下方修正し赤字決算に変更されました。会社はこうしたコロナ赤字を口実にしながら、いま徹底したコスト削減攻撃を展開しています。昨年から続く期末手当大幅減の人件費抑制をはじめ、利便性や交通弱者を無視した駅の無人化やワンマン運転の拡大、運転短縮など、そのスピードを早めながら様々な施策を押し進めています。さらにJR西日本長谷川社長がいう新型コロナウィルスによる社会情勢の変化に対応すべく「鉄道構造改革」のその目玉とするローカル線廃止に向けた動きも活発化しています。その意味でも、生活を守り、安全で働きやすい職場をつくりあげ、そして誰でも安心して利用できる公共交通機関を確立するという、労働組合としての喫緊の任務を如何に前進させていくのが問われています。

組織の強化・拡大の取り組みは、私たちにとって重要な運動の柱です。いま問われていることは、具体的な動きをつくることです。いま皆さんの努力によって対象者に対する行動も増える状況にあります。その動きを止めることなく継続、そしてその数を増やしていくことが求められています。やはり組織拡大は「動きなくして拡大なし」この一言に尽きるといえます。このコロナ禍の中にあつて、モノ言う労働組合とそうでない労働組合の差もよりはつきり表れつつあります。その意味では私たちの考え方を訴えるのには良い機会でもあります。結果を恐れず、拡大対象者に積極的に働きかけ、お互いに喜び合える日を迎えたいと思います。

22春闘はすでに始動しています。春闘の賃上げ率は3年連続で低下し、昨年は8年ぶりに2%を切る状況でした。いまや日本の平均賃金は先進7ヶ国(G7)で見ると、この30年間増えていないという報告もあがっています。その意味では、今春闘においては、労働者の苦しい実態を改善させるために奮闘しなくてはなりません。

- ### 地本役員
- 執行委員長 天野 伸行
 - 執行副委員長 三宅 明
 - 書記長 青山 准三
 - 執行委員 片岡 有宏
 - 小林 靖浩
 - 勝田 哲也
 - 第一支部委員長 林 秀樹
 - 第三支部委員長 三好 教弘
 - 会計監査 西原 浩
 - 岡本 岩夫
 - 古賀 由恵
- 今年もよろしく
お願いいたします